



《ル・ピラ》1935年、ポルドー美術館 © Mairie de Bordeaux, Musée des Beaux-Arts, photo, F. Deval

生誕150周年

アルベール・マルケ展

水辺を愛した画家

Albert Marquet: A Retrospective

2026年8月8日[土]→9月13日[日]

〔開館時間〕9:30—17:00(入館は16:30まで)

〔休館日〕毎週月曜日 *会期中、一部の作品の展示替えを行います。

〔主催〕三重県立美術館、中日新聞社、共同通信社 〔特別協力〕ポルドー美術館 〔後援〕在日フランス大使館／アンスティチュ・フランス

〔協賛〕DNP大日本印刷 〔協力〕日本航空、ヤマト運輸 〔助成〕公益財団法人岡田文化財団、公益財団法人三重県立美術館協力会

三重県立美術館
MIE PREFECTURAL ART MUSEUM



展覧会について

20 世紀フランス絵画の巨匠アルベール・マルケ（1875-1947）の生誕 150 周年を記念する展覧会を開催します。日本国内では 35 年ぶりの回顧展となります。

フランス南西部の港湾都市ボルドーに生まれたマルケは、パリでアンリ・マティスらと出会いました。彼らは画家仲間たちとともに強烈な色彩と自由な筆触によるフォーヴィスム(野獣派)と呼ばれる作風を展開します。しかし、マルケは観察にもとづいて描く態度を崩すことはなく、やがてニュアンスに富んだ中間色による穏やかな作風へと変わっていきました。マルケが好んで手がけたのは、パリの街とセーヌ河の光景、そして旅先の地中海沿岸地域で出会った港や浜辺の光景です。窓から眺めた大胆な構図で魅力的な風景画を数多く手がけました。

本展は、フランスおよび国内の美術館、ギャラリー、個人コレクターが所蔵する油彩、パステル、デッサンなど約 100 点から構成されます。これらの作品を通してマルケの画家としての形成期をたどり、その独自の作風がどのように確立されていったのかを明らかにするとともに、いくつかのモチーフやテーマ、とりわけ水辺の情景に焦点を当てます。繊細で洗練された色彩表現が生み出す光や空気感の違いが織りなすマルケ作品特有の魅力をご堪能ください。



①《ル・ピラ》1935 年、ボルドー美術館
© Mairie de Bordeaux, Musée des Beaux-Arts, photo, F. Deval

展覧会のみどころ

フランス近代美術の巨匠の全貌に迫る！

日本国内では 35 年ぶりの回顧展

アルベール・マルケ（1875-1947）はパリでマティスらとフォーヴィスム（野獣派）と呼ばれる作風を展開し、その後は独自の作風に向かいました。その軽妙なデッサンによりマティスから「我らの北斎」と称えられました。

日本国内での回顧展は 35 年ぶりとなります。本展ではフォーヴィスムの作風を展開した初期作品から晩年のポン＝ヌフ連作まで、油彩、パステル、デッサンなど約 100 点からその画業の全貌に迫ります。

水辺を愛した画家

マルケがとりわけ好んだのが、川や海、港など水辺の光景でした。パリではセーヌ河を望むアパルトマン（集合住宅）にアトリエを構え、窓から眺めた景色を描きました。また、国内外に旅行した際には、船が停泊する港や保養地の浜辺などを主題に、不断に変化する水辺の様子を描いています。会場では穏やかな筆致と繊細な色調で表された魅力的な水辺の情景をご堪能ください。

旅する画家

マルケは旅を愛した画家でした。フランス国内はもちろん、ドイツやイタリアなどのヨーロッパ諸国、さらにはアルジェリアやモロッコなどアフリカにも訪れています。とりわけアルジェリアの都市アルジェに魅了され、毎年のように滞在しました。アルジェでもやはり、港や海を望む光景を多く手がけていますが、穏やかだった港の光景には次第に軍艦が登場し、1940 年代の時世を感じさせる臨場感を湛えた作品が現れます。マルケの生きた時代の変化も感じさせるアルジェでの作品群にご注目ください。

力作！ ポン＝ヌフ連作

マルケは 1931 年にセーヌ河に架かる橋ポン＝ヌフを望むアパルトマンに転居します。ここがマルケの終の棲家となりました。マルケはこのアトリエを「パリで一番眺めのいいところ」と言い、橋の先にサマリテーヌ百貨店が見えるこの景色を幾度となく描きました。会場ではマルケが様々な天候や時刻で描いたポン＝ヌフ連作から 5 点をご覧いただきます。

展覧会概要

生誕 150 周年 アルベール・マルケ展 水辺を愛した画家

会期＝2026 年 8 月 8 日〔土〕から 9 月 13 日〔日〕

※会期中、一部の作品の展示替えを行います。

開館時間＝9 時 30 分から 17 時（入館は 16 時 30 分まで）

休館日＝月曜日

主催＝三重県立美術館、中日新聞社、共同通信社

特別協力＝ボルドー美術館

後援＝在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ

協賛＝DNP 大日本印刷

協力＝日本航空、ヤマト運輸

助成＝公益財団法人岡田文化財団、公益財団法人三重県立美術館協力会

観覧料＝一般 1,200 円（1,000 円） 学生 1,000 円（800 円） 高校生以下無料

＊（ ）内は前売および 20 名以上の団体割引料金

＊この料金で、「美術館のコレクション」、柳原義達記念館もご覧いただけます。

※柳原義達記念館は、8 月 18 日〔火〕－8 月 30 日〔日〕は展示準備のため閉室します。

＊生徒、学生の方は生徒手帳、学生証等をご提示ください。

＊障害者手帳等（アプリ含む）をお持ちの方および付き添いの方 1 名は観覧無料。

＊教育活動の一環として県内学校（幼・小・中・高・特支）および相当施設が来館する場合、引率者も観覧無料（要申請）。

＊毎月第 3 日曜の「家庭の日」（8 月 16 日）は団体割引料金でご覧いただけます。

＊主な前売券販売所 チケットぴあ、ファミリーマート、セブン-イレブンなど



②《アルジェ港》1922 年頃、パリ、個人蔵（協力：パリ、ギャルリー・ド・ラ・プレジダンス）

関連イベント

＊手話通訳・要約筆記、その他支援をご希望の方は、開催日の2週間前までにご相談ください。

□記念講演会

「フォーヴィスムのなかのマルケ」

くわなしんご

講師：桑名真吾（SOMPO 美術館学芸員）

日時：8月22日〔土〕14時から（90分程度）

会場：三重県立美術館 地下1階講堂

定員：140名

参加費無料、当日先着順（直接講堂にお越しください。13時30分に開場します。）



③《バルコニー、または縞模様の日よけ》
1945年頃、パリ、個人蔵（協力：パリ、ギャラリー・ド・ラ・プレジダンス）

□担当学芸員によるスライドトーク

本展の見どころをご紹介します。

日時：8月15日〔土〕、9月6日〔日〕14時から（30分程度）

会場：三重県立美術館 地下1階講堂

定員：140名

参加費無料、当日先着順（直接講堂にお越しください。13時30分に開場します。）

□ギャラリートーク

当館館長が展示室内で作品の解説をします。

日時：8月11日〔火・祝〕、8月30日〔日〕14時から（30分程度）

会場：三重県立美術館 企画展示室

展示室に入るためチケット（観覧券）が必要です。展示室入り口にお集まりください。

他にも…

■ エントランスにフォトスポット登場！

■ ジュニアガイド配布＆高校生以下先着1,000名様に展覧会グッズプレゼント！！